

だい きやまと し たぶん かきょうせいかいぎ だい かいかい ぎろく ようやく
第4期大和市多文化共生会議 第17回会議録(要約)

にちじ ねん がつ にち ど
日時: 2017年11月11日(土)14:00~17:00

ばしょ やまと し やくしよぶんちようしゃ かいかい ぎしつ
場所: 大和市役所分庁舎2階会議室

しゅっせき いいん いしま いとうもとみ いのみさと しらとりせつろう しようじ た
出席: 委員(石間フロルデリサ、伊藤素美、猪野美里、白鳥節郎、東海林まりえ、田
のいさいな ふかわたかつね やまと しこくさい だんじよきようどうさんかくか ふじ
野井咲奈、ハゲイ パトリシア、府川貴恒) / 大和市国際・男女共同参画課(藤
かわ こうえきざいだんほうじんやまと しこくさい かきょうかい さかい たなか こにし いしかわ いじよう
川) / 公益財団法人大和市国際化協会(酒井、田中、小西、石川) 以上
13名

けっせき いいん くすろみこ せやまり けいしりやく
欠席: 委員(ウプレティ マトリカ、楠瑠美子、瀬谷麻里)(敬称略)

ほうこくしよがいよう
1 報告書概要について

とうしよ がつ さいしゅうかい ぎ りじちよう ほうこくしよていしゅつ よてい きよう かいぎ
当初は 12月の最終会議に理事長への報告書提出を予定していたが、今日の会議の
すす ぐ あい がつ ほうこくしよ かんせい がつ りじちよう ほうこくしよ
進み具合によっては、12月いっぱいまでに報告書を完成させ、1月に理事長へ報告書
ていしゅつ ごと がつ りじちよう しちよう ていしゅつ なが
を提出することになる。その後、2月に理事長から市長へ提出する流れとなる。

がいこくじん にほんじん ぶそく
外国人と日本人の「コミュニケーション不足」

○課題の原因がコミュニケーション不足にあると言うより、コミュニケーションのかわし方
か だい げんいん ぶそく い か かた
に問題があるのではないか。外国人であれ、日本人であれ、コミュニケーションをかわ
もんだい がいこくじん にほんじん か
そうとする意識に問題がある気がする。外国人コミュニティ(サークル)と地域の日本
いしき もんだい き がいこくじん ちいき にほん
人が重なり合うことがない。

○コミュニケーション不足は一つの要因ではあるけれども、それだけが要因であると言
ぶそく ひと よういん よういん い
切ることはいできない。根本的には外国人も日本人も意識の問題なのだと思う。
き こんぽんてき がいこくじん にほんじん いしき もんだい おも

○必要な情報が外国人に届いていないのは、日本人がコミュニケーションをとっていな
ひつよう じようほう がいこくじん とど にほんじん
いからなのか、よく分からない。そもそも情報が欲しくなかったら要求することもない。
わ じようほう ほ ようきゆう
自分が何を知りたいのかを知らなければ知ろうとは思わない。

○「コミュニケーション」という言葉はあまり使わない方がいいのではないかと。と言
ことば つか ほう い
ても、コミュニケーションに代わる言葉は分からないが、誰と何をコミュニケートするのが問
か ことば わ だれ なに もん
題。情報を発信するだけではコミュニケーションにならない。委員の間でも解釈が違
だい じようほう はっしん いいん あいだ かいしゃく ちが
つちがうので、この会議でいうコミュニケーションの定義を決めておけるといい。
おも かいぎ がいぎ ていぎ き

○コミュニケーション不足とは何なのか説明がないのでわかりにくい。行政や日本人から
ぶそく なに せつめい ぎようせい にほんじん
の一方通行の情報発信だけではコミュニケーションとは言えない。しかし、外国人は必
いっほうつうこう じようほうはっしん い がいこくじん ひつ
要な情報にたどり着けないことがある。どこか外国人、日本人の双方で接点が必要
よう じようほう つ がいこくじん にほんじん そうほう せつてん ひつよう

ことを考えれば、どこかでコミュニケーションできる場があるといい。そうした場がない状態のことをコミュニケーション不足と表現しているのではないか。身近なところで行政なり、日本人なりが外国人とコミュニケーションできる場をつくれるといいが、この会議では持ち寄り交流会という形式でそうした場をつくった。コミュニケーションを交わすことが課題を解決するに至るまでの説明が足りていないのでは。

- コミュニケーション不足とは、外国人、日本人双方の接点が少ない状態のこと。コミュニケーションの場がない。
- 場が不足しているので、持ち寄り交流会を実施したが、場があるだけでは外国人の課題を共有するところまでは至らない。場がなくても、何か意識を変えるものがあれば、コミュニケーションにつながるかもしれない。
- 場を設定したとしても、何を目的とした場なのかわからない。子育てなど共通の話題があればいい。解決するためのヒントがそうした集まりで交わされる会話から生まていく。
- 国際化協会場で設定したとしても、参加者が少ないことがある。その要因を探らないといけない。単純にニーズがなかった、興味をもっている人が少なかったということなのかもしれない。外国人のために子育てについて集まる機会をつくっても、うちの子どもは何も問題ない、と考えている人であれば、そもそも集まろうと思わない。課題を認識していない人をいくら集めようとしても仕方がない。

「コミュニケーション不足」だけではない

- コミュニケーション不足だけが、課題の原因ではないと思う。間違っていないが、合っているとも言えない。
- 課題の要因としては、コミュニケーション不足の他に国の教育制度や文化的な背景などが挙げられると思う。
- 「コミュニケーション」を「交流」という言葉に置き換えたならダメか。「交流」の方がもっと広い意味を持つと思う。
- 外国人に関する教育や情報の課題は日常生活を送る上での課題なのだが、「交流」になってしまうと、イベント的な非日常の意味合いが強くなってしまって、課題解決につながらないのでは。
- 学校でも地域でも交流は長く続くものだが、「外国人がいる＝問題がある」というイメージを持たれてしまっている。外国人本人もよくわからないから子どもの授業参観や懇談会に参加しない。参加しないから何もわからないという悪い循環になる。でも、わか

らなくても授業参観に参加すれば、交流は生まれるものだと思う。しかし、同じ国の人たちとしか話をしないので日本人とのコミュニケーションは不足してしまう。地域の防災訓練に参加しても、地域の日本人は相手が外国人だと分かると話をしない。そうすると、参加した外国人は、自分は邪魔者だったかもしれない、と考えて次回の訓練に行かなくなってしまう。外国人、日本人の交流する場をつくって、続けていかないといけない。

「支援する、支援される」ではない関係

- 先日実施した持ち寄り交流会で外国人と日本人の接点がつくれなかったのだとすると、外国人のニーズがくみ取れてなかったのではないかと。大和市にはいろいろな団体があるはずで、そうした団体と連携しながら明確な目的を定めて持ち寄り交流会なりを実行していかないといけない。ニーズをくみ取ることが大切だと思う。
- 外国人はそれほど日本語ができなくても、日常では困っていないと思っている。私は外国人を食事に誘ったりしながら、大和市でがん検診を行っていることを伝えている。どこの病院でも受けられるので、毎年多くの外国人も検診を受けている。どのような形であっても外国人に伝え続けていく必要を感じている。
- がん検診についても、情報が届いてない、知られていないといった課題がまず先にある。今のお話の通り、課題をなくそうと思えば、行政や一部の外国人が頑張れば解決していくものだが、多くの日本人は知らないままになってしまう。行政や一部の外国人だけでなく、多くの日本人も一緒になって課題の数を減らしていく取り組みもあった方がいい。がん検診を知らせることに加えて、知らせる機会を設けなくても情報が届く仕組みが同時にあるといいのでは。外国人のニーズに応えていけば課題の数は減るかもしれないが、課題がなくなることはないので、いつまでもやり続けなくてはならない。
- どのような方法がいいかは議論するにしても、情報を発信するには継続的なやり方ではないとうまくいかないと思う。
- 情報を発信するとは別の形で解決できないものか。日常会話を交わす中で課題解決に結びつくような形をつくれるといい。支援する側、支援される側にこだわらない関係がつかれないのだろうか。外国人だけが頑張る日本語を勉強するのでもなく、日本人が外国人を支援するのでもない外国人、日本人の関係はできないのだろうか。
- 実現はむずかしいと思うが、外国人が気軽に相談できる場所があるといい。通訳窓口ではなく、外国人でも日本人でも構わないので、ボランティアがそこでいろいろな情報を提供する。働いている人はなかなか日本語の学習はできない。パーティーのため

の時間ならあるのだが。

- この会議でどうにかなるというわけではないが、働きながら日本語を学べる仕組みができあがっているといい。職場でも外国人に何か伝えるときにやさしい日本語を使えば、外国人にとっては分かりやすい。でも、そのためには日本人側の意識を変える必要があるので、今のところ、外国人が働きながら日本語学習するのはむずかしい。
- それは外国人労働者をどう受け入れるのかという日本社会全体の話になるので、この会議で話すにはテーマが大きすぎる。会社の経営側も理解する必要がある。
- 日本人は見て覚える、というスタイルで働いていると思うが、外国人にはそういった意識はない。
- 日本語を学びたい外国人は、例えば、夜に開催している日本語教室を知っているだろうか。
- 仕事が終わらないと来られないという人もいるし、来日間もない人でも意外と知っている人が多い印象。やる気がある人は探す。
- うまくいくように交流の場をつくってあげることが大事なので、そうした場があれば、課題が解決する可能性が高まる。何でそこまでやる必要があるのか、という人がいるかもしれないが、きめ細かくやってみるといい。やる気のある人は誰かに言われなくてもやる。場を提供したり、作ったりすることが大切なので、それがいろいろな問題の解決につながる。そういうことが出来てないと10年、20年後の日本が大変なことになる。

外国人と日本人のつながり方

- 持ち寄り交流会を実施したが、なかなか外国人の参加者がいなかったという反省がある。どうしたら良いのだろうか。
- 外国人がどうしても来なくなる魅力的な何かを用意する。
- 「子育てにつかう日本語を学ぼう」とか、切り口を変えていくことも必要では。交流だけでなく、日本語を学びながら子育ての情報を共有するという要素も加えてみると参加に前向きになってくれるかも。
- 交流する場と、日本語を学ぶ場は別のものでした方が良いのでは。
- 一緒に参加しようと友だちを誘ったが、日本語がわからない、たぶんできない、時間がない、仕事で忙しい、などの理由から参加してくれなかった。私が考える解決策は、外国人も自分で努力し、頑張るって日本のコミュニティに参加すること。
- 日本人に対して、外国人とつながりたいと思わせる動機は何かあるのだろうか。
- 外国人と知り合いたいと思っても、どこに行ったらいいのかわからないようだ。日本

- 人に向けても外国人との交流の場を知らせていく必要もあると思う。
- 場をつくるだけでは、なかなか近所にいる外国人までは効果を発揮しないので、日常的なものにできるといい。
 - 近くに外国人がいたとしても話す用事がなれば、あいさつ程度で話すきっかけもない。
 - 持ち寄り交流会に来てくれた日本人ゲストとお話してみたら、外国人のことはよく知らなかったようで、貴重な体験で、すごく勉強になったと言ってくれた。すごくもったいない。
 - 日本人は、外国人にどう話していいかわからないと思ってしまうのでは。外国人と話すきっかけとして、やさしい日本語を使ってみませんか、ということだっていいと思う。
 - 日本人側は貴重な体験になったようだが、体験と感じるようだと外国人と話すことが特別なことになってしまうので、もっと日常に近づけないと外国人の課題が見えるようにならない。
 - 最初は特別なことであっても、次からは日常になるかも。
 - 外国人と知り合っていくには根掘り葉掘り聞かないと仲良くなれないところもある。ある程度外国人に意識がある人へ投げかけていくのが大切だと思う。一般の人は日本人同士で話していればいいので、興味がないとできない。わたしも外国人を病院に連れて行くこともあるが、意識を持ったからそこまでできるのだと思う。
 - この会議の経験から考えると、やみくもにお知らせしてもダメなので、自分たちの知り合いからつながりをつくっていくしかない。意識のある人でないと一時的な交流はできても、継続していくのはむずかしい。
 - 日本人と話すのが怖い人がいるとして、ずっと怖くないよと言い続けるのはたいへんだと思う。地道な積み重ねが必要なので、まずは定期的に集まりがあることがいい。
 - 外国人が参加しやすい場にするには、とにかく外国人を呼ぶしかない。
 - 外国にルーツを持つ高校生もいる。徐々に広がりをつくっていくしかないのでは。
 - 対象とするべきは日本語のできる高校生ではなく、働いている父親や子育てしている母親などの外国人ではないか。家庭や職場で日本語が通じないなどの課題を抱えているのだと思う。

アプリの活用

- スマートフォンのアプリを活用すれば、誰かと相談したり、交流したりできるのではないかと。誰かが投げかける質問や困りごとに対して、誰でも回答や解決策を返信することのできるプラットフォームがあるといい。

- 確かにアプリを活用すれば、あまり知られることのない外国人コミュニティが可視化されるのだと思う。
- 誰でも参加できるので、自分の知り合い以外にも人のつながりを広げられるのではないかと。外国人ママが集うLINEグループでは毎月のように新しい人が入ってきている。
- フィリピンだとFacebook、Messenger、Viber、中国はWeChat、ペルーはFacebookを使うことが多い。日本に住んでいる外国人同士であればLINEを使う。

何を解決するか

- 事実を伝えるだけでなく、心の通じ合いまで含めた交流が必要なのでは。大きな課題に取り組むのではなく、小さな課題でもいいので一つひとつ解決することが大事と思う。今直面している困りごとを解決することが大事。
- つまり会議としては、日本人への働きかけや意識を変えるよりも、具体的に外国人の困っている教育や情報提供の課題を解決したいということか。
- とはいえ、教育や情報提供の課題は解決できないのではないかと。何をもちて解決と云うかだが、私たちの力では限られている。この会議のあり方は、課題を浮き彫りにして、万遍なく考えるものだと思う。
- 今までは浮き彫りにした課題を本来解決すべき人に投げかける提言型だった。
- 第4期の答えは出ませんでした、という結論はないのか。この会議のあり方が問われているのではないかと。
- 会議のあり方としては、当初から外国人の社会参画を進めるためには、日本人への働きかけが必要だと言ってきた。そのために、提言ではなく、私たちがアクションしていかないといけないものとして話し合ってきた。
- 例えば、国際化協会のFacebookページを使って、何語でもいいから困っていることを書いてください、という解決策はどうか。いろんな人が困っていることを一個一個解決していくもの。保育園の入り方がわからないなどの日常的な困りごとに誰かが応えてくれるしくみで、その場を用意すれば課題解決が進むというもの。

「コミュニケーション不足」への違和感

- 今提示している解決策は外国人と日本人のつながりをつくる、というものだが、委員の意見をまとめると、もっと具体的な解決策を提示すべきという意見になるのかもしれない。
- 外国人が課題を抱えていると自分で認識しているのかどうか、疑問に思っている。以

- ぜん まどぐち き がいこくじん ほうこく
前、窓口に来ている外国人はほぼピーターだという報告もあった。
- 次回会議までに論点を整理したい。コミュニケーション不足という認識を前提にしているが、この解釈が委員の間で違うのではないか。
- 課題の原因を考 えるのはまずもって無理なのではないか。課題が多過ぎるし、一人ひとりにとって違うもの。原因を明らかにすることよりも、私たちにできることをはっきりさせて、それが何に役立つのか、という言い方しかできないのではないか。
- 何のために課題を解決するのかが分からなくなってしまった。日本人の意識を変える必要があるという当初の方向性からズレてきている。
- 外国人が社会参画するためには、まず社会参加する必要がある。外国人の社会参加を邪魔している課題が数多くある中、この会議では教育と情報の2つの課題を取り上げた。多くの課題が出てきたが、解決策の一つとして、外国人と日本人のコミュニケーションを取り上げた。これまで2年間話したことはバカにならないわけで、委員の意識が向上したし、一般市民にも発信できる資質を養ったものと言える。
- 教育と情報提供という課題の原因はコミュニケーション不足である、という書き方には違和感を覚える。
- 課題を引き起こしている要因は国の教育制度などたくさんあるが、一番大きな要因としてコミュニケーション不足が考えられるのではないか、という取り上げ方をした。確かに、根本的に課題を解決するには、つながりをつくるだけでなく、例えば国の教育制度を変えろといった方法だってある。
- 課題解決を実行する主体は誰なのか。私たちがコミュニケーションの場をつくることなのか、私たちがコミュニケーションが必要なんですよと周りに働きかけていくのか、どちらなのか。私たちがやっています、みなさんでやってください、のどちらの方向で報告書をつくるか。
- どちらかと言うより、どちらも必要なことではないか。
- 私たちがやるとなると、これを行うという具体的な活動を明記し、そのための組織をつくる必要が出てくる。
- その場合、私たちは一市民としてではなく、委員(の経歴を持つ一人)としてグループを発足するということになる。今日の会議までグループをつくらうという話は出てきていないのだが、私たちは何ができるか、という話は会議の当初からしていた。
- グループをつくる方が報告をまとめやすい。委員の意識が高まり、小さな組織をつくって、小さな種をまいていく、というまとめもできるのではないか。
- どういう報告書になるにしても、総論を書くだけならかんたんなので、しっかりとした各

論を出した方がいい。総論としては提示された内容でいいと思っている。各論としては、一つひとつの課題をどうやって片付けていくか、金もマンパワーもかかるかもしれないことも盛り込んでみてはどうか。

2年間の結論

- 会議の当初には、外国人の社会参画に加えて、しくみを変えましょうという話もあったと思うので、それに対する回答もあるとよい。着地点がどうなるにしても、2年の取り組みで変化したことも明記しておくと思う。
- さきほど、総論としてはこれでいいという話があったが、外国人と日本人のつながりをつくるため、という前提でよいか。
- コミュニケーション不足について、委員の解釈が共通の認識になっていないのではなか。
- どんな課題でもコミュニケーション不足という便利な言葉で言いきれてしまうので、委員にとっては消化不良みたいになっている。例えば、子育てや税金などの課題であっても、コミュニケーション不足がその原因だと言える。しかし、コミュニケーション不足にこだわると総論になってしまう。
- 教育と情報提供の課題について、私たちに何かできることを考えると、提言をするか、私たちが何か行動を起こすしかない。提言しても課題の解決には至らない状況の上、提言するにしても、提言するための調査は不足しているので、課題を解決するための何かをこれからやる必要が出てくる。各論というものが教育と情報提供に関する個別の課題解決だとしたら、私たちがアクションするしかないのだが、広く市民に呼びかけで行動に移させるのはむずかしいと思う。
- 何が提言で、何がしくみなのかははっきりしない。行政が悪いと言いたいわけではなく、しくみを変えればいいのかと思っても、私たちは実践してないから言い切れないと思う。このようなしくみに変えれば、次につながると言う報告ではいけないのだろうか。行政への提言を前提とせずに話し合ってきたため、結論は次期の会議につなげるという報告はどうか。
- 結論なしの報告書では訴えるものがなくなってしまうので意味がないと思う。

つながりをつくるために

- 例えば、情報提供の課題を解決するために新しい組織をつくるのかと言っても、今までそういう議論はしてきていないのでむずかしいと思う。なので、外国人と日本人のつ

- ながら、コミュニケーションをつくるという総論で報告書をまとめるしかない。各論まで話し出すと終わりが見えないのではないか。落としどころを見つけたい。
- 異論とまでは言えないのかもしれないが、委員長や事務局側でまとめた方向に異論を言うつもりはない。コミュニケーションという言葉を使えば、いろいろな課題を解決できてしまう。コミュニケーションをつくるという解決策は、数ある解決策の中の一つとして出てきている。くどいようだが、各論も出しておいた方がいいと思う。お金や人がないし解決できませんという言い方をするのも一つだと思う。実現の可能性にこだわらずに考えられる解決策を書いてもいい。
- 解決したいと思うかどうか、がまず先にある。
- 今は、わたしたちができる範囲で解決できることを書いてある。もっと幅広い解決策を考えた上で、この部分であれば、私たちが解決につながられる、という書き方をしていく。ある部分では私たちには何も解決できることはないとも言える。
- アプリの活用について言えば、むずかしい日本語は使わないでほしい。
- 外国人と日本人のつながりをつくるための手段として、やさしい日本語とアプリ活用の2つが話題に上がった。また、Facebook上で、外国人の困りごとに対してみんなで答えを出していくという話もあった。
- 今日話してきたことを振り返ると、外国人の目の前にある課題を解決したいという方向性があるのではと思う。やさしい日本語にしても、私たちが少しずつ広げていってか、市民一人ひとりに広げてもらうか。市民一人ひとりがやさしい日本語で話してくれたら課題解決につながるの、日本人にどうやって気づいてもらうか、という話でもある。
- 手段としてはやさしい日本語とアプリの活用の2つの意見が出たが、どのようにやるかについては意見が出ていない。
- 日本語教室でやさしい日本語を使っているのであれば、どうやって外国人を日本語教室に行ってもらおうようにするかを考えるのがこの会議の役割なのだと思う。
- しくみを変えましょう、という話は外国人のための機会をつくりましょう、という意味。しかし、そこに外国人のニーズはない。テーマを決めたところで外国人が集まるとは限らないし、同じ悩みを抱えているとも言えない。例えば、アプリであれば集まりたい人が集まることができる。
- テーマを決めた集まりだと、それにしか興味を持たない人しか集まらなくなってしまう。テーマを決めたら、それはわたしと関係ない、と思ってしまう人もいる。ただし、ゆるっとしたら、それはそれで集まってくれない。テーマがゆるふわであっても、子育てできっちり決めても、人を集めるのはむずかしい。悩みがあれば、その場に向かうものだと思う

ので、意識の啓発を市民にお願いする形になるのかもしれない。

○実際に会うよりも、顔が見えない関係の方が日本人は入りやすいかもしれない。

○次回の会議では、外国人と日本人のつながりをどうやってつくるか、委員のみなさんからの意見をうかがうこととする。参加するハードルをどうやって下げるか、話し合っ

きたい。

○課題解決を前提にしない方がいいのかもしれない。困っていなくても参加できる形で外国人と日本人のつながりを考えてみたい。

○課題解決と言っても、課題と認識していない人をいくら集めても仕方がない。100人集まっても何もないよりは、5人しか集まらなくても困りごとが解決できればそれでいい。困りごとが解決されたなら、あの場所に行くといいよ、と口コミで広がっていく。人数だとか

結果は気にせず、中身を重視した方がよい。

○次回は、外国人と日本人がつながるために必要な考えを委員から出してもらって、どうやって課題を解決していくか考えていくこととする。

2 その他

次回は12月9日(土)14:00～同じ市役所分庁舎2階会議室で会議を行う。

以上